

休養施設のデザインについて

快工房株式会社 設計室 チーフデザイナー 小石川康彦

休養施設とは、都市公園法第二
条第二項第三号により、休憩所、
ベンチ、野外卓、ピクニック場、
キャンプ場、その他これらに類す
るものとされている。今回は、こ
れらのうち製品化されているベン
チ、野外卓、休憩所（四阿）のデ
ザイン面について解説を行う。

休養施設は、屋外空間を快適に
利用するための施設であり、機能
的かつ安全・安心は勿論、景観の
一要素として、その場所に存在し
続けることの責任を自覚した品格
と調和性を備えたデザインである
ことが重要である。また、高齢者、
障害者等、誰もが利用できること
を考慮したユニバーサルデザイン、
さらに、災害時に不可欠となるさ
まざまな活動への対応に、配慮し
ておくことも重要である。

一. ベンチのデザイン

ベンチは憩い、コミュニケーション
を楽しむ、見守る、飲食する
など多目的に利用される、基本的
には座る・腰かける施設である。
構造と寸法

座席部と、それを支える脚部
（フレーム部）から構成される。
手摺兼用となるような大きめの肘
掛は、ユニバーサルデザインへの
対応として有効である。形態によ
り、背付ベンチ、背無ベンチ、縁
台、連続ベンチ、サポートベンチ
（座面を高くした腰かけタイプ）
のように分類される。

座面高さは一般的に、背の有無
に関係なく四〇〇mm程度とする。
ゆったり座るには背付でやや低く、
腰への負担を軽減し、立ち座りや

すさを優先するならばやや高くす
る。背は、ゆったり座るには座面
との角度が一〇度前後で高く、
ちよつと座るには座面との角度が
一〇五度前後が望ましい。座面幅
は、一人肩幅約四五〇mmとして五
〇〇〜六〇〇mmと設定すると、一、
二〇〇mmは知り合いの二人掛け、
一、五〇〇mmは他人の二人掛けと親
子三人掛け、一、八〇〇mmは知り
合いの三人掛けに適した幅となる。
材料

座席部の主な材料は、自然木、
合成木材、プラスチック、スチー
ル等があり、選定に当たっては、直
接体に触れる部材なので、風合い、
感触の他、素材の温度上昇等も考
慮し、周囲の環境とも調和するよ
うに検討を行う。

脚部は主に、一般構造用鋼、ス
テンレス鋼、アルミ合金鋳物、鋳鉄、
石、コンクリート、擬石、擬木等
があり、選定に当たっては、座席部
を支えるため、強度も重要である。

屋外環境では、景観に配慮しな
がらも、長寿命化対策等により、
耐久性、耐候性の高い材料、維持
管理・部材交換等に係るトータル
コストの縮減に配慮した形状、材
料の選択も重要である。構造部分

は、耐久性の高い材料、目に見え
る部分、直接触れる部分は、風合
い、肌合い、感触等を配慮した材
料の選択を行うなど、状況に応じ
たベストな材料選択が重要である。

二. 野外卓のデザイン

野外卓は、飲食を主な目的に、
憩い、コミュニケーションを楽し
む、見守るなど多目的に利用され
るテーブルとベンチを組み合わせ
た施設である。多くは適切な位置
に両者が固定して設置される。
構造と寸法

テーブルとベンチが固定して設
置されるため、立ち座りに配慮す
る必要がある。テーブル脚は、座
った場合の足の置き場や出入りを
考慮して内側に配置する。高さは、
七〇〇mm前後でテーブル下部は、
車椅子での利用を考慮する場合六
五〇mm以上確保する。

手摺（サポートパイプ）を付加す
ることにより、車椅子がテーブルに
寄せやすく、高齢者や障害者の立
ち座りのサポートとしても有効であ
る。また、テーブル端の下部は、丸
みをもたせると出入り、立ち座りへ
の配慮として有効である。（写真1）

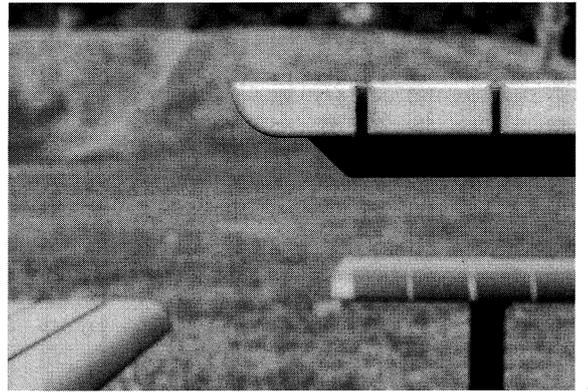


写真1 立ち座りに配慮したテーブル

材料

ベンチに準じるがテーブル面は汚れやすいので、不衛生にならない清潔感のある材質とする。

三. 休憩所（四阿）のデザイン

ベンチ、野外卓などを配置し、日除け、雨除けをして、休憩を取り、眺望を楽しむ施設である。また、災害時にはテント材などで周りを囲うことにより、一時避難施設として必要となるさまざまな活動に対応が可能となる。

構造と材料

柱、桁、梁で屋根構造を支え、壁をほとんどたない構造が多い

が、柱の間に腰壁を設けベンチを設置したタイプもある。四角、長方形、六角形などの多角形タイプがあり、屋根には切妻、寄棟、方形、片流れなどの形式がある。その形状や規模なども景観に大きく影響する。建築同様にあらゆる材料が用いられるが、維持管理面を考慮しながらその形態や景観にマッチした選択が重要である。

一時避難施設

天候の急変、落雷や降雨・雷雨を避けることを目的とする施設もある。このような場合、ベンチ、野外卓などを中央に配置せず収容人数を優先させることもある。写真2・3の四阿は遠足等の児童がクラス全員で利用できる大きさが確保されている。デッキを貼り、周囲にデッキと一体型のベンチを配置し、休憩所としては勿論、ランチ休憩施設としても機能的である。(写真2)

雷保護対策の四阿は、中心部を落雷が通り抜けないように構造材、柱等は絶縁体以外（木材等）の金属製（導体）とし、屋根全面にメッシュ状の均一な導体を張り巡らせ、地下に接地極を設ける、これと屋根上に設置された導体を導線で結び、落雷を地中に放出する方

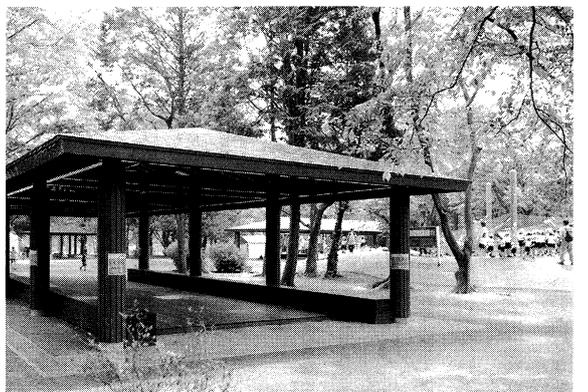


写真2 床にデッキ貼りの一時避難機能にも配慮した四阿

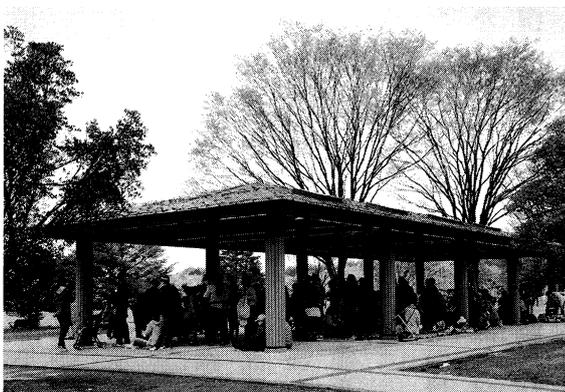


写真3 収容人数を優先した雷保護対策の四阿

式が有効である。(写真3)

四. 近年の休養施設的作用

現在、休養施設は都市公園・国

営公園・商業施設などさまざまな空間に設置されている。阪神・淡路大震災以降、「憩いの場」としての利用以外に災害時の活動拠点として有効利用され始めている。それらを踏まえると、景観を考慮しながらも維持管理、長寿命化等に十分配慮した材料も活用し、管理者側からとらえた施設提案も重要である。

災害・天災は、地震・台風・雷・火災・火山の噴火・津波・洪水・伝染病等、さまざまな環境で発生する。街中に防災倉庫を設置するのと同様に、自然環境の中でも観光地等、人が集まる場所には、景観に配慮しながらも災害時の対応に配慮した休養施設の整備は急務と考えられる。

小石川 康彦 ●こいしかわ やすひこ
 快工房株式会社 設計室 チーフデザイナー
 〈会社概要〉
 豊富な品揃えとオーダーメイドの実績に基づいたノウハウを生かし、状況に応じたベストな製品選択、製品開発を行うことにより、お客さまの思い描くイメージをしっかりと受け止めた、総合的なご提案が可能です。